

雨風に耐えて鍛えて幸せの花を育てん

「主体的・対話的で深い学び」を通して



教師の授業力向上のための研修

5月29日(木)社会科指導員訪問

講師:山崎 彰伯 先生(藤川小学校)



会議室で社会科研究協議会

5月29日(木)、3時間目に2年1組で社会科の授業研究が行われました。講師に岡崎市社会科指導員の山崎彰伯先生(藤川小学校)を講師に迎え、これからの授業についてのあり方を学びました。

社会科指導員の山崎彰伯先生からのご指導

- ・グループ活動には、次の3つが考えられます。
 - ①問題を発見する活動
 - ②考えを広げる活動
 - ③考えをまとめる活動

①と②は、いろいろな考え方を認める場とし、答えを収束させることにこだわらず、広がりがあってもよいと思います。③は様々な視点から考えをまとめ、答えを1つにしぼっていく場とします。この違いを教師が自覚し、グループ活動に取り組まなければいけません。
- ・グループ活動に終始するのではなく、必要に応じて合間に全体学習の時間をとり、話題をしぼってからグループに返すことも必要だと思います。
- ・グループ学習に入る前に、生徒たちが問題意識を十分もっていなければ、話し合いのねらいがブレて深まりません。二者択一など、話し合いやすい活動から取り入れ、グループ学習のやり方を教え、育てていく必要があると思います。
- ・額田中学校の取組がうまくいけば、生徒の活動量を一斉学習より大幅に増やすことができ、主体的な学び、深い学びに向かっていく理想的な学習形態をつくることができると思います。

教師の授業力向上のための研修

5月29日(木)国語科指導員訪問

講師:堀田 史 先生(竜美丘小学校)



5月29日(木)、4時間目に3年2組で国語科の授業研究が行われました。講師に岡崎市国語科指導員の堀田史先生(竜美丘小学校)を講師に迎え、これからの授業についてのあり方を学びました。

国語科指導員の堀田史先生からのご指導

- ・指導案に2年生からの学びが、3年生にどうつながっているのかという系統性が記載されているところが素晴らしいです。グループ学習の有効性も記載されている点がよいです。グループ学習のCRS1とCRS2のねらいが明確に記述されているのもよいと思います。
- ・言葉にこだわり、「も」の意味、言葉の置き換え、動作化を取り入れ、2つの俳句から他の作品も読み取る力を育成していこうとする展開が素晴らしいです。
- ・授業の導入で、前時の振り返りをしていました。セルフチェックカードの内容を紹介して、本時につなげる学習展開をしてもよいと思います。セルフチェックカードを有効活用すると、学びにつながりができてきます。
- ・CRS1のグループ学習で、自分の考えを出し切れない場合、教師の出としての働きかけをどうしたらよいかを考える必要があります。グループの司会者を決めて、だれでも司会ができるように、スキルトレーニングもしていくとよいと思います。また、グループ編成の方法を工夫することも大切です。
- ・CRS1から全体学習に進める時、教師が全体学習をどう展開するかを見通して、教師の出の工夫を考えていくとよいと思います。
- ・「垂直に」を「斜めに」と置き換えると、どんな読みになるかを考えることができます。「言葉の置き換え」も深い学びにつなげるよい方法だと思います。また、「咳がしても」と「咳がしても」と「を」を「が」に置き換えるとどうなるのかを考えるとよいと思います。
- ・セルフチェックカードで、本時を振り返ることを継続すると、自分を見つめ直す力を育成することにつながると思います。
- ・グループ学習の仕方を学ぶことが大切です。先生がすべてのグループ学習を見取ることは不可能です。生徒同士で学び合う学習方法を身に付けることが大切です。グループ学習内で、「なぜ、そう考えたの」「それはどういう意味なの」「どこからそんなことが言えるの」など、生徒同士で問い返す力をつけていくとよいです。
- ・何のためのグループ学習なのかを明確にして、個別学習、全体学習を効果的に組み合わせると、価値あるグループ学習になると思います。